



第75号

2015年2月13日

◆ 発行 ◆

名古屋労災職業病研究会

名古屋市昭和区山手通 5-33-1 杉浦医院 4階

TEL&FAX : 052-837-7420

e-mail : roushokuken@be.to

<http://nagoya-rosai.com/>



アスベスト飛散事故が起きた機械室の前で、煙の出る機器を使い風向等を調べる「六番町駅アスベスト飛散にかかる健康対策等検討会」のメンバー（2014年12月4日 名古屋市営地下鉄名港線六番町駅）

75号目次

- ★ 全国一斉アスベスト被害ホットライン 2014 報告 P2~P3
- ☆ 外国人住民のための社会保険セミナーを行いました P3~P4
- ★ 名古屋市営地下鉄六番町駅アスベスト飛散事故後からこれまでの報告 P4~P6
- ☆ 長編ドキュメンタリー映画「シロウオ～原発立地を断念させた町～」を鑑賞して P7~P8
- ★ 事務局からのお知らせ P8~P10

2015年2月1日、伊藤光保前代表が逝去されました。伊藤先生のご活躍、ご指導に感謝の意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

次号「もくれん」で森亮太代表に伊藤先生の思い出を綴っていただく予定です。

★全国一斉アスベスト被害ホットライン 2014 報告

12月17日の厚生労働省の平成25年度の石綿ばく露作業による労災認定等事業場発表を受けて、12月18日、19日の二日間、中皮腫・じん肺・アスベストセンター、愛媛労働安全衛生センター、関西労働者安全センター、中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会等との合同で「全国一斉アスベスト被害ホットライン」を実施しました。

中部地区を名古屋労災職業病研究会が担当しました。事前に各報道機関に情報を流しておいた為、18日の朝刊には中日、朝日、読売、毎日の主要4紙全てに掲載されました。ただ当日はあいにくの雪に見舞われ、その影響でテレビ取材を予定して下さっていたNHKとCBCのクルーが来られなくなってしまい、ニュースに流してもらうことが出来なかったという点が少し残念でした。それにも拘らず電話相談は二日間で28件を数えました。



今回の相談で特徴的だったのは、建材に関する問い合わせが、ご自宅の車庫のサンルーフを新しくするため、スレートをご自身でばらして更にそれを細かく切り刻んでしまった後に、「回収業者にアスベストが含まれていることを聞いてしまったがどうしよう。」など2件程度しかなく、ほとんどが健康被害についての相談だったことでした。

相談者の中には、中学を出て大手タイル製造会社に入社してから、10年程は主に外装用タイルを窯に入れて焼く作業に従事されていた旦那様を肺がんで亡くされたご遺族の方や、大手機械メーカーの建材部に所属して防衛庁関係の仕事を一手に引き受け、航空基地周辺の施設に取り付ける防火・防音扉を作る仕事に従事され肺がんになられた方、一人親方で長年大工をされて中皮腫を発症し旦那様を亡くされたご遺族の方など多岐にわたり、皆さんそれぞれ深刻な悩みを抱えている方達ばかりでした。

先述の大手タイル製造会社に勤務されて亡くなられた方は、トロッコごとタイルを窯の中に入れて焼く際にトロッコがよく倒れて、それを直す為に防火服を纏い窯の中に入っていたという話しも聞くことができ、更に、防火・防音扉を作っていた男性の方からは、まさにニチアスから仕入れた青石綿そのものを扉の板と板の間に敷き詰めていたという驚きの話も伺うことが出来ました。一人親方で大工をされて亡くなられた方は、労災に特別加入されていた為、その後の支援で無事に申請まで辿り着けました。

また、倉庫で荷役の仕事をされ、コンテナで運ばれて来た南京袋に入った50kgもの石綿を掻き下ろしてコンベアに乗せた後、パレットに積み換える作業をされていた方もみえました。

ホットライン以降も支援を必要とする方については引き続き継続中ではありますが、今回相談のお電話をかけて下さった方はまだまだ氷山の一角でしかなく、2030年にはアスベストの被害者は10万人に達するだろうと言われており、今後ますます増え続けて行くことは

間違いありません。アスベストがどこに使われており、どこで曝露したのか、明らかにすることが難しい案件も多々ありますが、被災者の方々が皆等しく補償されるように努めて行きたいと考えております。

(近藤 大輔)

☆外国人住民のための社会保険セミナーを行いました

昨年、12月20日(土)に愛知国際プラザで愛知県国際交流協会、労職研共同で「外国人住民のための社会保険セミナー」を行いました。講師は労職研運営委員で社会保険労務士の榊原梧志さんが務めました。このセミナーには、日本に暮らす南米出身の日系人や、外国人支援をしている団体の日本人スタッフの方々も参加しました。外国出身の方々にはそれぞれ通訳者がつきました。

社会保険は日本政府が運用している保険で、国籍に関係なく日本にいる人は入らなければなりません(強制加入)、外国人住民の方々には負担が大きく見え、加入に消極的になってしまう人々も多くいます。そんな人々に加入することによってもらえるお金のこと等を学んでもらう機会を作り、社会保険に加入することのメリットについて学んでもらおうとセミナーは企画されました。

セミナーでは健康保険、労災保険、年金、雇用保険制度について榊原さんが分かりやすく説明してくれました。私にとっては普段活用していないため忘れていた給付について改めて学ぶ良い機会になりました。例えば、「協会けんぽ」や企業の「健康保険組合」に加入している場合、治療費の個人負担は30%になりますが、外国籍の人が母国に一時帰国した時の治療費も領収書や診療の明細書があれば個人負担分の30%を除いた70%が支給されることは、最近、そういったケースがなかったので忘れていました。榊原さんはほかに、年金については、外国人のみ出国後に保険料の一部を返還する「脱退一時金」の制度があることや、欧米や韓国とブラジルと日本の間には、母国の年金制度と、日本の年金制度の2重払いを防ぐために、日本での加入期間を母国の年金の加入期間にして、年金が支払われるようにする取り決め、「社会保障協定」があることなど、外国出身の住民にとって役に立つ情報を講義しました。日本では25年の年金加入で、年金の支払いを受けることができますが、ブラジルでは10年の年金加入で年金の支払いを受けることができることなどの情報も有益でした。

雇用保険についても榊原さんは外国人住民が興味を持ちやすい例をあげて説明しました。失業の給付は、自分の都合で辞めた場合は、手続き後3か月待たされますが、解雇等会社の都合で辞めた場合は7日後の分から支給され、支給期間も長いです。外国出身の労働者はよく会社を辞めさせられる事があるため、このことについて、「解雇だと会社にとってはハローワークからの補助金がもらえなくなるので、干涉退職にして会社への補助金はカットされず、労働者にとっては失業の給付が早くもらえるようにして両方収まるようにすることがある」と、現場の話を紹介してくれました。



社会保険制度について説明する榊原さん

セミナーの後には相談会が行われ、2人の方々が年金や労災についての相談を受けました。
(成田 博厚)

★名古屋市営地下鉄六番町駅アスベスト飛散事故後からこれまでの報告



六番町駅機械室の復旧工事の決定

平成25年12月12日に名古屋市営地下鉄六番町駅の換気機械室での吹き付けアスベスト除去工事中に、養生により完全に隔離されているはずの工事現場から空気1ℓあたり700本の青石綿（クロシドライト）が駅構内に飛散した事故から1年が過ぎた。事故発生原因が特定できないまま、名古屋市交通局は2月7日の終電後、閉鎖されたままの六番町駅機械室内のアスベストの片づけや養生の取り外し工事をするを労職研事務局に2月5日、電話で通告してきた。この通告を受け、労職研、愛知健康センターは交通局営繕課長などとの面談を2月6日の午前にもち、除去したアスベストの片づけや削り取った部分を固化する処理を1週間ほど行った後、機械室内の養生の撤去や事故を起こした業者の機材の搬出作業を数日行うとの説明を受けた。2月6日の深夜に保健所による工事前チェックを受けるとのことであったが、私が気になったのは、アスベストの片づけ作業中に稼働する4台の集じん・排気装置（負圧集塵装置）の排気ダクト4本が、地下鉄コンコースにある機械室から延々地上の一番出口までのばされることだった。地下から地上までビニール製の排気ダクトがのばされる訳だが、途中連結される集じん・排気装置はなく、機械室内のみの集じん・排気装置の排気能力ではたして地上まで空気が排気できるものか疑問だったが、営繕課長は排気が可能だと言っていた。

労職研などの名古屋市交通局への働きかけ

事故から1年を間近にした昨年12月2日、労職研、愛知健康センター、愛知県保険医協会連名で交通局に要請書を出した。要請の内容は、機械室の後片付け工事の際に、事故を起こした業者のみにアスベスト飛散の有無のチェックを行わせるだけでなく、事故の反省を踏まえて第三者機関による監視を行ってほしいということや、交通局の他の施設でのアスベスト除去工事において、現在、どのような再発防止策がとられているか文書で回答して欲しいというものだった。これに対し、交通局は12月18日付の回答で「六番町駅のアスベスト片づけ等の作業は保健所（大気汚染防止法）と労働基準監督署（石綿障害予防規則）にそれぞれ法律に基づいた届け出を行い、確認を受け、保健所による作業前現場点検を受けるので、第三者機関による監理は必要ない」ということや、施工時の管理方法については、「集じん・排気装置からの排気について、デジタル粉じん計により、常時監視を行い、粉じん漏えいが認められた場合は、作業を中止する措置が講じられる」ということなどを当方に伝えてきた。労職研と愛知健康センター、愛知県保険医協会はこの回答を受け、今年2月4日、さらに要請書を提出した。要請書の内容は、六番町駅アスベスト飛散事故は保健所、労働基準監督署のチェックを受けたにも拘らず発生したので、第三者機関の監視を行って欲しいことや、作業場に設置した集じん・排気装置からの排気のデジタル粉じん計による監視のみでなく、作業場出入り口付近でのデジタル粉じん計による監視も行って欲しい等だった。この要請が工事直前であったため、冒頭に記したとおり、当方が交通局との面談をすることになった。この要請により、交通局は自前で一台デジタル粉じん計を用意し、作業場出入り口付近での計測を行うことを決めた。

アスベスト飛散にかかる健康対策等検討会の開催

六番町駅アスベスト飛散事故直後の昨年1月9日、労職研と愛知健康センター連名で、名古屋市交通局に事故の発生原因の究明や駅員、乗客の石綿ばく露実態の検証等を行うことを要請した。また、民主党の名古屋市会議員、橋本ひろきさんに名古屋市会（市議会）で、六番町駅アスベスト飛散事故後の、交通局のアスベスト除去工事業者資格要件や施工時の管理方法について質問してもらったりもした。アスベスト除去工事の時に、集じん・排気装置からの排気をデジタル粉じん計で常時監視することや、「石綿作業主任者」、「特別管理産業廃棄物管理責任者」を恒常的に雇用している業者で、過去15年に元請として交通局で行う工事と同等規模のアスベスト除去工事を施工した実績がある業者のみ工事を受注できることなどの資格要件は、橋本さんの質問の時に交通局が打ち出したものだった。

昨年5月10日には、交通局による「六番町駅アスベスト飛散にかかる健康対策等検討会」の第1回目が開催され、宇佐美郁冶氏（旭労災病院副院長）、上島通浩氏（名古屋市立大学大学院 医学研究課 環境保健学分野教授）、那須民江氏（中部大学生命健康科学部スポーツ保険医療学科教授）、新谷良英氏（大同分析リサーチ 環境測定センター 環境専門部長 環境計量士）、久永直見氏（愛知学泉大学家政学科教授）の5人の専門家構成員と交通局による、アスベスト飛散による乗客等への健康影響についての検証作業も始まった。この検討会は、交通局がアスベスト飛散による健康への影響及び対応について専門家の意見を聞くために設置されたもので、アスベスト飛散事故の原因究明のために設置されたものではないが、事故発生原因についても議論が行われるのが興味深いところだ。昨年8月8日に行われた第2回検討会ではアスベスト飛散原因の調査結果報告が行われ、①換気洞道部と前室部で、一部養生が剥離していたことが確認されたこと、②3台の集じん・排気装置の排気が1本にまとめられており、1台分の排気量しか機能しておらず、隔離された工事区画内が外と比べて低く保たれず、負圧不足であったこと、③集じん・排気装置本体の隙間から空気の流入が確認され、アスベスト粉じんを空気中から取り除くHEPAフィルターの取り付け部からも漏れが確認されたこと、④機械室内の吹き付けアスベストが湿潤化されていなかったことなどが報告された。交通局はこれら4つの要素が今回の高濃度アスベスト飛散事故の原因であると推認はできるが、事故当日のアスベスト除去工事現場を見ているのは工事を行っていた業者のみで、その工事業者がアスベスト飛散につながったと考えられるこれらの事実を認めていないため、どれが決定的原因か特定できないという態度だった。第2回検討会はNHK名古屋放送局のニュースで大きく報道されたが、交通局への取材にあたった記者は、④の湿潤化されなかったことについては、工事を行った業者に取材したところ、アスベストが固くて湿潤化剤をかけてもぽたぽた床にたれてしまい、無意味であったとの証言を聞いたと筆者に教えてくれた。

健康対策等検討会による六番町駅視察とアスベスト拡散シミュレーション作成の決定



六番町駅視察

第2回健康対策等検討会では久永直見委員から、「事故当日、六番町駅でどのような空気の流れがあったのか把握するのが大事で、12月の同じ時期の、同じような気候の時に六番町駅の気流を測ることが粉じんの拡散を見るうえで大事」という意見が出され、検討会のメンバーで現場を視察し文殊の知恵で意見を出し合うことが提案された。さらに、「どれくらいのアスベストが、どれくらいの時間、どれくらいの範囲に広まったのかを示したシミュレーションがあると、地域に対して説明す

る一番の内容だ」という意見も出され、検討会による六番町駅事故現場視察の実施と六番町駅構内の事故当日のアスベスト粉じん拡散状況のシミュレーションの作成が前向きに検討されることになった。

検討会による六番町駅事故現場視察はマスコミ、一般にも公開され、昨年、12月4日の午後実施された。検討会の専門家構成員、交通局で煙の出る機器（スモーク・テスター）を持ち、事故の起きた換気機械室前や換気機械室に一番近い階段につながる1番線ホーム、アスベスト飛散が確認されたコンコース上にある旅客トイレと、事故当日空気1ℓあたり2.5本の青石綿を検出した地上の換気塔につながる換気風洞等で、機械で白い煙を発生させ風向等を確認した。また、委託業者によって、事故時のアスベスト拡散シミュレーション作成のために必要な風向、風量等の機器による測定が1月26日から1月29日まで六番町駅構内で行われた。



アスベスト飛散シミュレーション作成の為にされた機器による風況調査

第4回健康対策等検討会における工事技術者による講演

第4回健康対策等検討会は2月9日に行われた。専門家構成員達がこれまでに交通局に出していた様々な質問に関する報告や意見交換が行われたあと、鹿島建設でアスベスト除去工事対策を担当していた(株)As-C 姫野の姫野賢一郎さんの講演が行われた。姫野さんは1月29日に六番町駅をご自身で視察した上で、今回のアスベスト飛散事故の原因に関する考察を発表した。今回の飛散事故では、集じん・排気装置本体に隙間があったことや、アスベスト粉じんを空気中から取り除くHEPAフィルターの取り付け部からも漏れが確認されたことなどが事故の大きな原因と考えられているが、負圧集塵装置（集じん・排気装置）からの漏れだけでは200本/ℓから300本/ℓ程度の飛散になるはずで、今回のように700本/ℓの飛散になるのは考えにくく、負圧除塵装置の不備だけが問題だったのか疑問であることや、同じく、飛散防止剤の散布不足だけで、これほどのアスベスト繊維数が検出されるかも疑問との考え方を示した。その上で、六番町駅は地上から空気が流れ込み、駅構内全体が負圧状態になっており、地上→地下鉄入口→通路→改札口→階段→ホームへの風の流れがあり、通常は地上から機械室に空気を送る、事故当日はビニールシートで封鎖されていた風洞に漏れがあり、空気が機械室に流入し大量のアスベストを押し出した可能性があるとの考えを述べさらに、機械室から流出したアスベストが階段からホームに降りていき、線路を伝いホームの両側にある大宝町と六番町の換気所から地上に排出されたのではという考えも述べた。また、アスベスト飛散が確認された平成25年12月13日の保健所の口頭による工事停止の行政指導後、5時間も集じん・排気装置を運転し、飛散状態を続けたことは人的ミスであることを指摘した。この日は、久永専門家構成員と他2名の構成員が、機械室復旧工事開始前日に現場視察した時の報告も行われた。

次回、検討会は3月下旬の予定で、アスベスト粉じん拡散状況のシミュレーションの発表などが予定されている。第4回検討会の日には交通局の担当者に、六番町駅で始まっていた除去したアスベストの片づけや削り取った部分を固化する工事について聞いたところ、「昨晚の保健所の測定結果は異常かなかった」ということだった。六番町駅アスベスト飛散事故の検討会は毎回傍聴しているが、一度起きた飛散事故の原因を調査するのは容易ではない。

（成田 博厚）

☆長編ドキュメンタリー映画

「シロウオ～原発立地を断念させた町～」を鑑賞して

昨年 11 月 29 日に豊田市福祉センターへ映画「シロウオ～原発立地を断念させた町～」を観に行ってきた。この映画を知った経緯は、労職研が実行委員として携わった韓国映画「もうひとつの約束」の上映を知った女性から教えてもらい、是非観に来て下さいと誘って頂いたのがきっかけでした。東海地方初の公開ということで更に興味が湧いてきました。

この映画は 30 年以上も前に、紀伊水道を挟んだ二つの町の住民たちが協力し合い、原発計画を断念させた、徳島県阿南市椿町の「蒲生田原発」と和歌山県日高町の「日高原発」の両原発で反対運動をした方々のお話を中心に展開するドキュメンタリー映画です。

阿南市椿町では家畜農家のオーナー、旅館の女将、シロウオ漁をする元市会議員、日高町では元教師のおばあさん、漁師と民宿経営を営む社長、原発反対を掲げて選挙に当選した元町長、原子核物理学者などの、当時を振り返って語る貴重な体験話や、実際に起きてしまった福島の現状に心を痛められ、原発を作らせなかったことに安堵する本音など、生の声も聞くことが出来ました。更には、賛成派から陰口や心無い言葉を浴びせられたり、住民が二分され引き裂かれた状況の中、断固として危険性を疑い、決して折れることのなかった強い意志を持ち続けて原発マネーを拒否することに成功した彼らの姿に胸を熱くしました。

住民の方のお話には、当事者にしか分からない彼ら自身の生活や自然を守る為に紡いだたくさん深い言葉を聞くことが出来ました。特に強く印象に残ったのは、家畜を残して去るしか術のなかった福島の家畜農家の苦しい胸の内を押し量り、言葉を詰まらせて涙した同じ家畜農家を営むオーナーの話や、釣り上げられて網の上で跳ねるシロウオの眩しく透き通った透明感が脳裏に焼き付いています。

今後も多くの場所で上映されると思いますので、興味のある方は是非観賞してみてください。詳細については以下の HP をご覧ください。http://www.kasako.com/eiga1.html

上映終了後にはかさこ監督のトークがありました。最初に、東日本大震災が起きるまでは原発に何の関心も無かったと話され、被災地を訪れてその様子を目の当たりにして、これは福島だけの問題ではなく今後も起こりうると、危機感を強く抱いたのがきっかけでこの映画を撮ることに決めたそうです。また、お話の中で放射線の怖さについて語られる場面があり、まず真っ先に目に見えない怖さを挙げて、原発に近いから危険という訳ではなく、遠く離れた地域でも高い濃度が検出される例が後を絶たず、距離には比例しないのだと話されました。更に、最も怖いのは風評被害が起きることだとも強く仰っていました。最後には、原発を拒否した町が 30 以上もあると話され、政治家に頼ったり、国や原発など、何かに頼るのではなく、自立して知恵を絞って自分たちの町を守らなくてはならないのだと主張し、「自立」という言葉を何度も繰り返し熱く訴えておられました。

かさこ監督の話にも出て来ましたが、実際に原発を誘致した自治体は 20 足らず(17 か所、54 基)で、立地を断念させた町が 30 以上(34 か所)もあったと聞いて強い衝撃を受けました。福島の原発事故が起きた今、あの時原発を作らせなかったのは間違いじゃ無かったと一言で片付けるのは簡単ですが、30 年以上も前に安全神話を信じず、見破っていた方々がこんなにもいたのかと思うと正直驚きを隠せませんでした。

私は長らく名古屋で暮らしていたにも拘らず知らなかったのですが、東濃の土岐市には核融合科学研究所、瑞浪市には超深地層研究所が存在していることを皆様ご存知でしたか。核融合科学研究所では 2016 年度から水爆実験が開始されるそうです。放射性物質が放出されることにより岐阜県は元より、河川を通して愛知県にも流れ着く可能性もあり、この東海地方には、浜岡原発以外にも他人事では済まされない問題を抱えている現状を知ることができ、併せて、南海トラフ三連動巨大地震が囁かれる中、原発再稼働の問題を改めて考える良い機会となりました。

また、会場の外では、瑞浪の超深地層研究所の建設計画を聞き、それ以来原発のごみの問題を意識し始めた可児市在住の洋画家亀谷秀司さんが描いた「核 1 万年・負の遺産」の絵画の展示も同時に開催されました。ご本人自らが 1 作品ずつ詳細に解説して頂いたのにも驚きでしたが、この研究所が原発のごみを地下深く埋める研究の場になるということを知った、当時の住民グループが「将来、原発のごみの処分場になるのでは」と反対運動を展開したという話もされました。更には、この地域をリニア新幹線が通るのもこれら研究所に深い関わりがあるとも仰っていました。処分場設計事業申請される 2020 年に照準を合わせ、まだまだ研究所を描き続けると話され、研究所の存在を広く訴えて行きたいと熱く主張されました。そして最後には、来場した皆さんにも拡散のお願いをされて締め括られました。

当日は朝から激しい雨降りでしたが、新しい発見が多くて何か得した気分で雨上がりの中、車を走らせ帰ったのを今でも覚えています。

(近藤 大輔)

★事務局からのお知らせ



★「アジア・世界のアスベスト禁止運動」についての講演会

世界中のアスベスト運動の現場を歩いている、古谷杉郎さんの講演会があります。参加費無料です。是非、ご参加下さい。古谷さんは名古屋労災職業病研究会が加入している、全国労働安全衛生センター連絡会議の事務局長です。

日時：2月21日(土) 14時40分～16時30分

場所：労働会館本館2階 第4 & 5会議室(名古屋市熱田区沢下町9-3)

★「震災時のアスベスト対策を考える集い」in 名古屋

名古屋労災職業病研究会事務局が名古屋市営地下鉄六番町駅構内でのアスベスト飛散事故のその後について少しお話しします。

日時：2月22日(日) 13:00～16:00

場所：名古屋市瑞穂生涯学習センター 視聴覚室(名古屋市瑞穂区惣作町2-27-3)

★「宇田川さんの学校アスベスト裁判」傍聴のお願い

日時：3月23日(月) 11:00～

場所：名古屋地方裁判所

傍聴をよろしくお願い致します。

★ホームページが新しくなりました！！

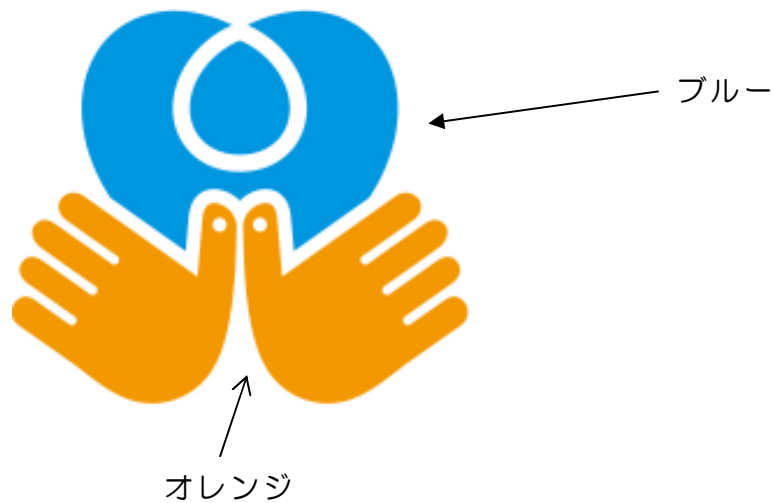
労職研のホームページがオレンジ色を基調とした温かみのあるホームページに生まれ変わりました。お問い合わせフォームやサイト内検索を設け、より分かりやすい内容になっています。是非一度ご覧ください。今後は労職研の新しい情報をお伝えできるよう、更新に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

お手数をおかけしますが、ホームページ URL が変更になりますので、以下の URL に更新下さいます様、よろしくお願い申し上げます。

<http://nagoya-rosai.com/>

(株)ジーワークスさんにホームページ作成と共に労職研のロゴも作っていただきました。

<労職研ロゴ>



(ロゴの意味)

オレンジは名古屋労災職業病研究会、ブルーは労働者を表しています。ブルーの中にあるしずくは「涙」、ブルーの全体は「口」、オレンジは「手」をイメージ。

みんなの涙を労職研がすくい、一人では発言しにくいことも一丸となれば大きな声が出せると表現しています。

また、オレンジは平和のイメージである鳩のイメージも持っています。労職研と労働者が一緒になり明るい社会ができたらという祈りを込めて作られました。

★労職研第 12 回総会のお知らせ

日時 : 5月31日(日)午後

場所 : 日本特殊陶業市民会館第1会議室(名古屋市・金山)

記念講演 : 「産業疲労」(仮題)

中部大学生命健康科学部保健看護学科 城 憲秀先生(労職研会員)

詳細は次号「もくれん」でお知らせします。是非ご参加ください。

労職研の活動



12月			1月		
	2日	朝鮮高校無償化裁判傍聴		4日	労職研運営委員会
	2日	東海在日外国人支援ネットワーク運営委員会		8日	名古屋労職研事務局会議
	4日	六番町駅アスベスト飛散にかかる健康対策等検討会		9日	中皮腫・アスベスト疾患患者と家族の会全国会議
	8日	名古屋入管との意見交換会		9日	ユニオンみえ旗びらき
	11日	HEART 忘年会		13日	学校アスベスト裁判傍聴
	12日	アスベスト対策愛知連絡会会議		17日 ～ 18日	アスベストユニオン相談会&総会(広島県呉市)
	18日	名古屋労職研事務局会議		20日	東海在日外国人支援ネットワーク運営委員会
	18日 ～ 19日	全国一斉アスベスト被害ホットライン 2014		22日	静岡アスベスト被害ホットライン・相談会記者会見
	20日	外国人住民のための社会保険セミナー&労働相談会		24日	コミュニティユニオン東海ネットワーク第15回会議
	25日	ニチアスアスベスト裁判傍聴		29日	名古屋労職研事務局会議
				30日	中皮腫・アスベスト疾患患者と家族の会
				31日	静岡アスベスト被害ホットライン・相談会

【労職研 会費・カンパ振込先】

郵便振替 □座番号 00860-5-96923
加入者 名古屋労災職業病研究会

発行 名古屋労災職業病研究会

発行者：森 亮太
名古屋市昭和区山手通 5-33-1 杉浦医院 4階
Tel./Fax.052-837-7420
e-mail: roushokuken@oregano.ocn.ne.jp
http://nagoya-rosai.com/